

# 高齢化が進む中国

texted by 滋賀銀行 前上海駐在員事務所長 戸藤 和俊

世界第2位の経済大国となった中国。経済発展とともに人々の生活は徐々に豊かになっているものの、一人当たりのGDPは6,747ドル(約688千円)と、日本の38,494ドル(約3,926千円)に比べ5分の1以下である。30年以上続いた「一人っ子政策」により人口増加が抑制され、急速な高齢化が進行しており、今後、大きな社会問題となることが予想される。

## 高齢化社会に突入した中国 生活環境も変化

2013年末、中国の高齢者人口は60歳以上が2億243万人(総人口の14.9%)、65歳以上は1億3,161万人(同9.7%)となった。65歳以上の人口割合が昨年25%を越えた日本は、すでに“超”高齢社会に突入しているが、中国には65歳以上の高齢者が日本の4倍以上いる計算だ。今後、2020年には60歳以上が約2億3,400万人、65歳以上は1億6,400万人になるとも予想されている。

そしてこの20年、経済発展にともなって中国の人々の食生活は大きく変化している。私が昼に日本料理店でうどんを

啜っていると、横ではすき焼きやステーキ、舟盛りの刺身を食べている中国人サラリーマンを見ることも多い。生活習慣病は当たり前、糖尿病患者が1億人を超え、予備軍は約5億人いると報告されている。この激動の20年を生きてきた40代・50代の人々が10年20年後、老後の生活を健康的に営んでいるとは考えにくい。

## 増える「空巢老人」

また、若者が故郷から都市部に出稼ぎをし、親から離れて生活するようになったことで、残された夫婦だけ、あるいは独りで生活している高齢者(=空巢老人)が増加している。孤立していく高齢者が

安心安全に生活していくためには、社会保障面(財政・インフラ)のさらなる改善が求められている。

## 上海市郊外の老人ホーム

昨年、上海市内から車で40分の郊外に老人ホームが開業した。地上8階のマンション風の建物は、玄関を入ると広々としたロビー、きれいな食堂がある。奥の広間では15人ほどの輪の中で介護士が体操を教えていた。日本でもよく見かける風景だ。

一人当たりの入居費用は入所保証金が30,000元(約50万円)、最低ランクの部屋で約3,000元(約5万円)／月、南



上海市郊外に開業した5つ星級の設備を有する老人ホーム

向き個室になると約8,300元(約14万円)／月となる。

中国では、定年(女性50歳～55歳、男性60歳)になると積立額に応じて違いはあるものの、年金が支給される。昨年50歳で定年退職した知人女性の年金は月額2,900元(約47,000円)とのことだった。物価上昇等を勘案して年金支給額は増加しているが、一定の貯蓄が無ければ、老人ホームへの入居も難しい。

## 中国での良き慣習が 高齢者のコミュニティーを形成

北京市内南東部に、世界遺産でも有名な天壇公園がある。通常、35元(約570円)の入園料が必要だが、北京市内の65歳以上の高齢者等には無料で解放されている。北京市政府の高齢者対策の一環である。

このような有料公園の無料開放は中国各地で実施されており、朝夕はもちろんのこと、週末になると朝早くから大勢の高齢者が公園に集まってくる。太極拳、ヨガ、舞踊、体操などで体を動かしたり鍛えたりする人もいれば、トランプ、将棋などを仲間と楽しむ人もいる。日本ではあまり見かけないコミュニティーの場

だが、仲間と体を動かし、会話し、笑いあうすばらしい習慣だ。高齢者の心身の健康や生きがいにもつながっているのではないだろうか。

## 日本の高度な医療・介護の提供

翻<sup>ひるが</sup>って日本は世界一高齢化が進んでいる。医療、高齢者介護産業、社会インフラにおいては、中国をはじめ東アジアで一歩も二歩も先んじており、これまで培った経験やノウハウは、今後、中国が高齢化社会を乗り切るための大きな示唆を与えるだろう。

高齢者介護施設の建設や運営、在宅介護サービス、介護機器、介護用品などの分野においては、中国各地で展示会やビジネスミッションが開催され、各国の企業がこの巨大シルバー産業市場を大きなビジネスとして促している。この分野でビジネス展開していくには、中国人の生活スタイル、文化、法律、制度など、理解し越えなければならぬ壁は多そうだが、近い将来、日本の技術やノウハウが中国における高齢化社会で浸透し役立っていることを期待したい。

## 第1回ものづくり商談会 @バンコク2014

6月20、21日の2日間、バンコクにて製造業の商談会「ものづくり商談会@バンコク2014」が開催された。主催はファクトリーネットワークアジア。同社は中国で過去16回の開催実績があるが、東南アジアでは本商談会が初開催である。当行を含めた地方銀行や自治体など21団体が共催し、150社の企業が出展した。タイの政情不安で開催自体が不安視されていたが、東南アジアで最大規模の国際展示会「Manufacturing Expo」と同時開催であったこともあり、来場者数1,121社に達するなど盛況のうちに閉幕した。

運営方法は、出展企業の製品やサービスをウェブで事前に公開し、商談申込を幅広く受付する。一方で主催者が出展者の商談案件に合う企業を独自に探す。商談日時や要望の調整を主催者が行い、開催日の数日前には商談設定を完了する。中国での開催経験によるノウハウ蓄積の結果、有効商談率の高いシステムが構築されている。商談件数の多さだけでなく、面談内容も充実していると出展企業から好評であった。

東南アジアにおける製造業の結節点と呼ばれるタイ。会場の熱気より、この商談会が今後ベトナムやインドネシアに進出する日系企業も巻き込んだ規模となる可能性を感じた。来年は出展企業ブースを400社に拡大し開催する予定だ。本商談会を東南アジアでの新たな調達先や販売先との出会いの場として活用されることをお勧めしたい。

### 「ものづくり商談会@バンコク2014」

出展対象企業：製造業および製造業企業にサービスや製品を提供する非製造業  
出 展 料：72,000/ブース(約23万円)  
※当行等の共催者経由の場合、60,000/ブース(約19万円)  
共 催：地方銀行および自治体等21団体  
協 賛：カシコン銀行、バンコック銀行、NNA(Thailand) Co.,Ltd.

(しがぎんアジア月報7月号より)バンコク駐在員事務所長 河村正弘



上海市内で介護用品を販売している専門店



天壇公園で音楽に合わせ踊りを楽しむ高齢者